

「生活」（防災を体験しよう）学習指導案

1. 日時 令和7年9月4日（木） 第5, 6時限（13:25～14:30）

2. 場所 小学部第5学年 1組教室

3. 学部・学年・組 小学部 第5学年 8人

4. 単元（題材）名 「防災を体験しよう」

5. 単元（題材）目標

- ・安全や命を守ることを意識し、自分の身を守るための行動や基礎的な避難行動を取ることができるようにする。【知識及び技能】
- ・命や自分の生活を意識して、自分に必要だと感じるものを選んだり、考えたりすることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・日々の生活が恵まれた環境であることに気づき、災害時に備えて自分に必要なものを考えようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

6. 児童観 【略】

7. 教材観

昨年度から継続して、避難訓練の事前学習を中心とした防災学習に取り組んでおり、児童が災害時に適切な判断と行動ができるよう、知識と実践を結びつけることを重視している。火災避難訓練においては、実際の火災映像を視聴して煙が立ち上る様子を具体的に確認した後、ハンカチで口を覆い、低い姿勢で避難する実践的な練習を行っており、児童たちは「なぜ低い姿勢で避難する必要があるのか」という理由について概ね理解を示していた。地震・津波避難訓練では、東日本大震災の実際の映像や津波の威力を科学的に検証した実験映像を活用し、多くの児童が集中して映像を視聴する姿が見られる一方で、映像のみでは災害の規模や危険性について具体的なイメージを持ちにくい児童も見受けられ、より体験的で身近な教材の必要性を感じた。

本単元は、小学校学習指導要領に示される生活の内容「イ安全」を扱う学習であり、児童の日常生活における経験や具体的な体験活動を重視した教材の設定をした。

本単元では「防災バッグ」を使用する。「防災バッグ」とは、災害発生時に備えて日用品や食料品などの必要物資を入れた非常用の持ち出し袋のことであり、水、食料品、衣服、医薬品などの生活必需品から懐中電灯、ラジオ、救急用品、防寒具などの非常時用いるグッズまで多様なアイテムが含まれている。防災バッグは実際に「見る・触る・持つ」ことができる具体物であり、抽象的な「防災」や「命の大切さ」の学びを視覚・触覚・感覚を通じて体感できる教材である。防災バッグに含まれる水・食料・懐中電灯・救急用品などを通して、児童は「自分の命を守るために何が必要か」を具体的に学ぶことができる。命を守るためには「備える」ことが大切だということを知り、「自分を大切にす」道徳的価値を育むことにつなげたい。児童自身が各家庭から持参している非常用持ち出し袋を活用することで、本単元の学習内容を関連付け、実際の災害時をより具体的にイメージすることができる。それぞれの物資の必要性について考える中で、児童から「命を守る」、「生きる」といった考えが自然に導き出されることを期待する。

8. 指導観

本単元は、これまで継続的に実施してきた避難訓練の学習を基盤として、地震発生時の対応から地震後の生活まで、段階的に防災意識を育成することを目的としている。特に、地震発生直後の避難行動から、避難所での生活、そして個人の防災準備まで、時系列に沿った体系的な学習を通じて、児童一人ひとりが自分事として防災を捉え、「命を守る」ことの理解につなげたい。

第1次では、地震火災避難訓練に向けた事前学習を行う。これまで学習してきた避難時の約束「お・は・し・も・ち」や災害に応じた避難行動についての復習を中心に学習を進める。約束の確認の際には、暗記的な確認にとどまらず、「なぜ人を押しはいけないのか」などの問いを出し、転倒による怪我のリスクや避難の遅れなどの危険性について児童自身が考え、自分や他者の命を守ることにつながる答えや考えを導き出せるように促す。また避難行動の練習の際は、より実際の災害時の状況に近づけるために煙を模した白い布を用意して姿勢を低くする高さを明確にしたり、地震発生後の避難となるため瓦礫に見立てた段ボール箱や軽量の障害物を用意して足場の悪いところを避難する練習をしたりする。体験的学習を好む児童のために、実際に体を動かして学ぶ時間を十分に確保し、煙中での移動や障害物のある場所での安全な歩行方法を身につけさせたい。

第2次では、地震発生後の避難生活に焦点を当て、災害時に必要な物資や生活の工夫について体験的に学習する。児童が普段の1日の生活を朝から夜まで時系列で振り返り、生きていくために欠かせない基本的なものについて考える。「食事」「水分補給」「睡眠」「排泄」「清潔保持」など、生命維持に必要な活動とそれに必要な物を整理する。この際、日常生活を描いたイラストや学校生活の写真、生活の流れを示した図表などの視覚的教材を活用し、児童がより具体的なイメージを持てるようにする。その後学校にいる時間帯に地震が発生し、学校で避難生活を送るという想定で学習を進める。先ほど挙げた「生活に必要なもの」は災害時にどこから手に入れることができるのか、学校という限られた環境でどのように確保するのかについて、児童同士や教員との対話を通じて考えを深める。また各家庭から持参した非常用持ち出し袋を提示し、中身を確認する時間を設定する。3食分の食料と飲料水を中心に、それぞれの分量が適切かどうか実際に手に取って確認したり、持ち出し袋を実際に持って重さを体感したりする活動を行う。

第3次では、防災バッグについて学ぶ活動と、自分で防災バッグの中身について考える活動の2つを設定する。実際の防災バッグを用意し、中に入っている物品を出して児童と一緒に用途を確認していく。各物品の名称、用途、使用方法を児童と一緒に確認し、実際に手に取って触ることで、重さ、大きさ、使い勝手を体感する。言葉での説明では理解しにくい児童や、体験や感覚で学びを深めていく児童もいるため実際に児童が自由に触る時間を作り、実際の使用場面を想定した体験活動も取り入れる。その後、防災バッグの中や教員が用意した児童たちが必要だと感じそうなものから自分が必要だと思うものを5つ選んで児童それぞれのマイ防災バッグを考える。小学部3段階の児童には防災グッズや生活必需品などの一覧の写真を掲載したプリントを見て必要な物を選ぶようにする。実際の物品を見て選ぶ児童へは、物品を使用用途で分類して並べて選びやすいようにしておく。選ぶことが難しい児童は、教員と一緒に一つひとつ物品を手に取り、気に入ったものを探す時間にする。最後に児童が物品を選んだ理由を発表する時間を設ける。発表の中で、これまでの学習を通して「命を守る」ことに関連した発言が出ることに期待し、他の児童の選択理由を聞くことで、多様な考え方や価値観の理解につなげる。また発語がない児童へは、教員が代弁するとともに、発表を聞いている他の児童に対してその児童が選んだ理由を尋ねる。

この第3次までの活動を、毎時間ごとに一つの模造紙に活動中の写真も加えて整理しておき、廊下に掲示しておく。いつでも見返せるようにしておくことで防災意識や命を大切にする心の発達を促したい。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 安全や命を守ることを意識して、基礎的な避難行動を取ることができる。	① 命や自分の生活を維持する重要なもの（水やトイレ、生活用品等）に気づく。	① 避難訓練や、防災バッグの学習を通して自ら安全や命について考えようとしている。
② 自分の身を守るために必要な行動や動作ができる。	② 自分に必要だと感じたり、興味をもったりした物品を選んでいる。	② 防災グッズに関心を持って、触ったり、使ってみたりしている。
	③ 自分にとって心地の良いものに気づき、教員と一緒に選ぶことができる。	③ 自分の好きな感覚の防災グッズや、感覚グッズを使おうとしている。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全4時間、本時は第3、4時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	1	○「地震火災避難訓練事前学習」 - 地震、火災時の避難方法の振り返り - 避難時の約束 「お・は・し・も・ち」を考える - 避難行動の練習	- それぞれの災害時の避難方法について、児童の実践や教員の手本で確認をする。 「お・は・し・も・ち」の約束についての動画を見て、それぞれの約束の意味を考える。 - 地震後に火災が発生した想定で避難行動の練習をする。	- 児童に火事や地震時の避難行動の手本を児童が行い、これまでの学習経験を振り返るようにする。 「なぜ〇〇をしてはいけないのか」という問いを出したときに、考えることや、発表が難しい児童には選択肢を出したり、考えの道筋を示したりする。 - 煙を模した白い布を用意し、姿勢を低くする目安を分かりやすくする。 - 瓦礫に見立てた障害物を設置する。「お・は・し・も・ち」の約束を再度確認し、安全に逃げることを意識できるように促す。	A① A②

2	2	○「災害後の生活を考えよう」 1日の生活を振り返る - 災害が起きた時に、必要なものはどこにあるか探す - 非常用持ち出し袋の中身を考える。	1日の生活を時系列に沿って映像や写真を見ながら振り返る。 - それぞれの教室に分かれて、2人ペアになって災害時に必要になる物を探す。 - 非常用持ち出し袋の中身を出して、内容物を確認する。 - 非常時の暮らしを体験する。	- 児童の普段の学校生活の様子を映像や写真でTVに写し、具体的なイメージをもてるようにする。 - チェックシートを用意する。物品をいくつ見つけることができるかでペアで競い、意欲的に探索活動を行うように促す。 - 確認時に食べ物の種類や、量について等のやり取りを入れて、友だちや教員とコミュニケーションを図れるようにする。 - 生活に必要な水を持ってみるブースと、避難時の睡眠体験ブースに分けて活動時間を確保する。 - 段ボールやマットの他に、マットレスを用意し、比較して体感できるようにする。	B① B① C① C②
3	3	○「防災バッグについて知ろう」 - 防災バッグの中身を見る - 防災グッズを体験する。	- 実際の防災バッグに入っている物品の名前と用途を確認する。 - 気になる防災グッズを手にとって、試してみる。	- 実際に物品を教員が使用している様子を見せて、用途イメージをもちやすくする。 - 使用用途別に物品を配置する。選ぶことが難しい児童は、教員と一緒に物品を手にとって触れるよう促す。 - 物品を体験している児童に「どんな時に使う。」と問いかけ、災害時のイメージに結び付けるように促す。	B② C① C②

4	○「マイ防災バッグを作ろう」 ・防災バッグに入りたい、物品を5つ選ぶ。 ・発表	・机上に並べられた、防災グッズの中から、自分が必要だと感じたものや気に入ったものを5つ選ぶ。 ・選んだ5つの物品を見せながら、選んだ理由を発表する。	・防災グッズや生活必需品などの一覧の写真が載ったプリントを配布し、それを見て必要な物を選ぶようにする。 ・実際の物品を見て選ぶ児童たちへは、物品を使用用途で分類して設置し、選びやすいようにする。 ・発表の手本を教員がする。 ・発語がない児童へは、教員の代弁に加えて、発表を聞いている児童に選んだ理由を尋ねる。	B② B③ C① C② C③
---	---	---	---	---------------------------------------

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・避難時の自分の状況を想像して自分に必要だと感じるものを選んだり、考えたりすることができるようにする。
- ・防災グッズに関心をもって、自ら手に取って関わり、使い方を考えることができるようにする。

(2) 本時の評価規準

自分に必要だと感じたり、興味をもったりした物品を選んでいる。B②

自分にとって心地の良いものに気づき、教員と一緒に選ぶことができる。B③

避難訓練や、防災バッグの学習を通して自ら安全や命について考えようとしている。C①

防災グッズに関心を持って、触ったり、使ってみたりしている。C②

自分の好きな感覚の防災グッズや、感覚グッズを使おうとしている。C③

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・テレビ
- ・タブレット端末
- ・非常用持ち出し袋
- ・防災バッグ（防災バッグの内容物を含む）
- ・長机
- ・チェックシート

(4) 児童生徒の実態と本時の目標 【略】

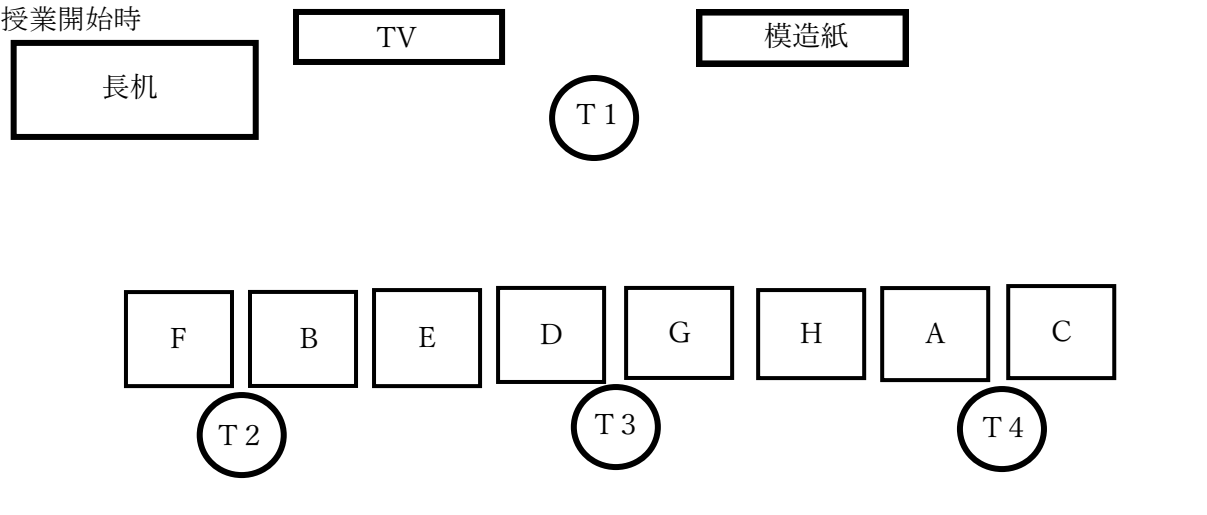
(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価 規準
15分 導 入	○はじめのあいさつ ○本時までのふりかえり ・模造紙、前時までの活動の写真や映像を見てふりかえる。 ○防災リュックを知ろう ・防災リュックと非常用持ち出し袋の違いを知る ・防災リュックの中に入っている物品を確認する。	・授業の始まりが意識できるように、日直の児童が前に出てあいさつをして注目を促す。 ・前時に撮影した写真を児童が模造紙に貼ったり、活動中の映像を見たりして、前回の活動を思い出しやすいようにする。 ・最初に、前時に使用した非常用持ち出し袋の実物を提示する。その後に、用意した防災バッグを提示し、見た目や大きさの違いに着目できるような発問をする。 ・非常用持ち出し袋と防災バッグを児童に持たせて、重さの違いに気づき内容物の違いがあることに着目できるように促す。 ・防災グッズを実際に教員が使用してみる。 ・物品はおおまかな使用用途に分類わけして、順番に見せながら確認する。 ・「どんな時に使うものか。」を児童へ問いかけ、防災グッズに関心をもてるようにする。 ・それぞれの児童の実態に合わせて、先に物品に触れる時間を設定する。	
45分 展 開	○防災グッズを使ってみよう ・2カ所に分かれたブースで、クラス毎に防災グッズを実際に使う体験をする。 ・5分で交代ブースを交代する。 ○5分休憩	・使用用途に分けて、ブースを設置する。 ・ブースを教室の両端に設置し、広い活動場所を確保する。 ・教員と一緒にそれぞれの物品や防災グッズの使用用途について確認しながら体験させる。 ・TV画面にタイマーを映し、音と映像で時間の終わりを意識できるようにする。	C① C② C③

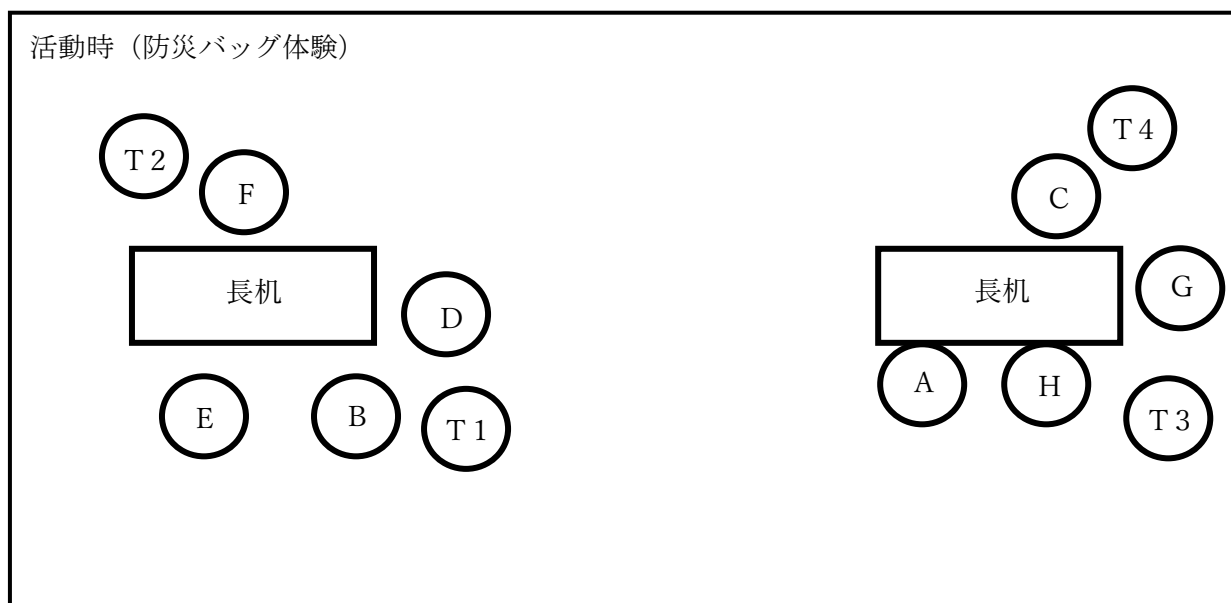
	○「マイ防災バッグ」を作ろう ・避難時に必要な物品や、防災グッズ、普段使っている物の中から5つ選ぶ。 ・防災グッズ一覧プリントの選択肢から災害時に必要なものを5つ選ぶ。 ・実物を見たり、触れたりしながら、チェックシートを使って、防災リュックに入れたいものにチェックをしながら選ぶ。 ○発表 ・1人ずつ前に出てきて、選んだ物品をバッグに入れる。 ・入れた物品を一つずつ見せながら、選んだ理由を発表する。	・防災バッグに入っていない、新たに用意した物品について紹介する。 ・「必要だと思うものを先に複数選んでから5つに絞る選び方」や、「5つを最初から意識して慎重に選ぶ選び方」などの選び方について確認する。 ・児童へ防災グッズの一覧プリントを配付する。 ・活動前に「災害が起こった時に、自分に必要だと思うものを選ぶ」ことを確認する。理解が難しい児童には、個別でT Tが確認する。 ・児童はT Tと一緒に「自分が欲しい、気に入った物」を選ぶことを確認する。 ・実物を確認したい場合は、前の机の上に設置してあるブースに見に行っても良いことを伝える。 ・発語がない児童や、選ぶことが難しい児童は、教員と一緒に一つひとつ物品を手に取りながら反応を確認して気に入った物品を見つける。 ・チェックシートはカラーで印刷して用意し、実物と見比べやすくする。 ・児童が選びやすいように、使用用途や種類別に分けて物品を設置し、グループごとに色分けをして分かりやすくする。 ・発表の手本を教員が示す。 ・一人で発表が難しい児童には、授業者やT Tが選択肢を出したり、気持ちを代弁したりする。 ・発語がない児童は、教員が代弁する。また発表を聞いている児童に選んだ理由について質問する。	B② B③ C① C② C③
5分 ま と め	○ふりかえり ・本時の活動についての感想を聞く。 ・T Tが撮影した写真や動画を見る。 ○まとめ ・備えることの必要性や、「いのち」や「生活」についての意識を確認する。	・発言できる児童には、自分の考えた言葉で思いを伝えるように促す。 ・発語のない児童を中心に写真や動画を選び、注目を促す。 ・授業者から「いのち」について話すのではなく、児童の中から発言できるように問いかける。	

(6) 教室配置等

授業開始時



活動時（防災バッグ体験）



活動時（防災バッグ作成）

